

# 1頭飼うのと2頭以上飼うのとはこんなに違う！

飼っている犬や猫の数が多くなれば、食餌や散歩などの世話、首輪や引き綱などのペット用品、ワクチン代などの医療費などが、単純に頭数に比例して増えるだけではありません。1頭で飼っている場合と違った配慮が必要になるのです。手間や費用は、頭数の何倍にもなるといういいでしょう。

## → 違い 1 不妊去勢手術が必要になる

1頭飼いの場合でも予定外の繁殖を防ぎ、生殖器系の病気を予防するために不妊去勢手術は必要です。さらに、2頭以上で飼う時には、同性同士でも無用な争いやストレスを防ぐという意味で重要性が増します。特にオスとメスで飼う場合には、メスは最初の発情前、オスは性成熟前に不妊去勢手術をすることが必要です。

犬や猫にとって、繁殖に関する行動は自分で抑制できない強い欲求です。生殖腺(メスの卵巣とオスの精巣)があ

る状態だと、異性の相手が身近にいれば当然交尾したくなりますし、いなければ相手を探しに行きたくなります。欲求を残したまま交尾させないというのは、犬や猫にとって大きなストレスになり、肉体的・精神的な病気や問題行動を引き起こす原因となります。同居の同性同士では繁殖の優先権を巡って争いが生じることもあります。オスの場合、交尾した経験があると、去勢した後も交尾の欲求が残ることがあります。



### 不妊去勢しないストレスで出やすい問題行動

- 1 異常に吠える、鳴く
- 2 ケンカ
- 3 不適切な排泄(マーキング)
- 4 自傷行為(手足を舐める、自分の尾を追いかけるなど)
- 5 家から出ようとする、放浪する

### 事例

#### 交尾できないストレスでオス犬が足先のパッドをかじり壊してしまったケース

オスとメスの犬を飼っているAさん。子犬が生まれて数が増え、これ以上飼えないのでもう生まないようにオスだけを去勢しました。ところが、交尾を経験したオス犬は、去勢してからもメス犬が発情する度に落ち着きを無くし、メス犬が気になって餌も食べません。ストレスで自分の足先を執拗に舐め回し、毛は抜けて潰瘍になり、ついにはパッドをかじり壊してしまいました。



猫や犬の繁殖効率はとても高く、親子きょうだいの間でも子供を作るため、放っておくと1組のオスとメスがあっという間に何十頭にも殖えてしまいます。

毎年、何万頭もの子猫や子犬が殺処分されています。これ以外にも、病気、交通事故、飢餓で死んでいる子猫や子犬がたくさんいるのです。



1頭のメス猫が・・・



1年後には**20頭以上**



2年後には**80頭以上**



3年後には**2000頭以上**



- ★メス猫は生後4～12ヶ月で子猫を産めるようになり、年に2～4回出産し、1回に4～8頭の子猫を産みます
- ★犬も増える速度は違いますが同様です。メス犬は生後6～9ヶ月で子犬を産めるようになり、年に約2回出産し、1回に5～10頭の子犬を産みます